

# “LGBT”って何？ —ありのままを生きる—

## 自分である権利

七尾中学校3年 高垣 茉那<sup>たか がき まな</sup>さん

この作文は、平成29年12月2日に、さくらびあ大ホールで行われた「人権フェスタ2017」で作者本人の朗読によって発表され、会場の多くの人に感動を与えました。

日本国内で約一〇〇万人。あなたは、この数字が何か分かりますか。これは、日本のLGBT当事者のおよその数です。LGBTというのは、L・レズビアン（女性同性愛者）G・ゲイ（男性同性愛者）B・バイセクシャル（両性愛者）T・トランスジェンダー（体の性と心の性が一致しない者）の性的少数者のことです。割合にして七・六％。これは、日本の左利きの人とA型の人とほぼ同じ割合になります。つまり四十人に三人、クラスに三人は居るということになります。だから、私達が思っているよりも身近な存在だということです。現代社会で、LGBTの方を取り巻く環境は決して良くはありません。世界では、人権を守られるはずの何百万もの人々が、性自認を理由に、差別を受けているのです。

ような言葉を言えてしまう環境は、当事者にとって生きづらい場所だということです。更に、学校には「制服」というハードルもあります。トランスジェンダーの方が性別と逆の制服を着ているだけで、気持ち悪い、自分が恋愛対象になるのではないかと皆が遠ざかっていくそうです。また、LGBTを告白しただけで、同じような差別を受けることもあります。当事者は、嫌悪感に陥り、自殺に至ることもあります。「出る杭は打たれる」ということわざの様に、皆と同じでなければいけない、ありのままの自分を出してはだめなんだと、とても辛い思いをしている人がいるのです。

何故、LGBTの方が差別を受けるのでしょうか。私達と同じ、人権を持った人間のはずなのに。それは、私達が異性愛や男女という性別が当たり前の社会で育ってきたからだと思います。だから、当事者が自分の性に気付いても、男らしく、女らしく生きることが強いられる環境になっているのだと思います。学校で、私が聞いたホモ・オカマという言葉も、言った本人達は、その言葉が普通ではないものだと思っていて使っていた

のだと思います。つまり、当事者が異常だということの大前提に発言していたのです。ですが、これは言った本人達だけが悪いのではなく、LGBTという存在や言葉が、浸透していないことに問題があるのではないのでしょうか。もしかしたら私達は、たとえその人に向けた言葉でなくとも、ふとした時に当事者を傷つけているのかもしれない。

異性でするべき、男らしく、女らしくあるべきという考え方は見直す必要があります。私が女であるように、人にはそれぞれの性があります。百人いれば百通りの性があるといいますが、私達は、多様な性と共に生きていく必要があります。

日本では、LGBT賛成派と同じように、反対派の方も居ます。理由として、少子化を促進してしまふ、自然の摂理に反している、家族観を否定しているなど様々です。確かに、男女という性別が当たり前の環境で私達は育ち、過ごしてきました。だから、LGBTを理解できない人がいるのは仕方ないことです。ですが、そう考えるのには理由があると私は思います。それは、日本ではLGBTだと告白している人が少なく、LGBTを認めた社会に、不安を抱くからだだと思います。私達は、今一度両者の考えを認め、その人らしく生きるために、当事者の気持ち

私に、違いを認め合い、互いに生きやすい社会を作っていく必要があると思います。そのためにはまず、LGBTについて知り、理解を深めることからだと思います。また、学校だけでなく、会社や様々な場所で当事者が、自分らしくいれる環境を作ることが大切だと思います。そうすれば、誰もがありのままを受け入れられる社会になっていくと思います。

現代社会の持っている、恋愛は

最後に、自分の言動を振り返ってみて、もし差別をしてしまっていたなら、これから理解を深めていってください。私は、多様な性を多様な個性だと思っています。私も、これから更に多様な性への理解を深め、認め合える社会を目指していきます。そして、世界中の人が、ありのままの自分を好きになり、自分らしく生きていけることを願っています。

※原文のまま掲載しています

## みんなが輝ける社会をめざして—



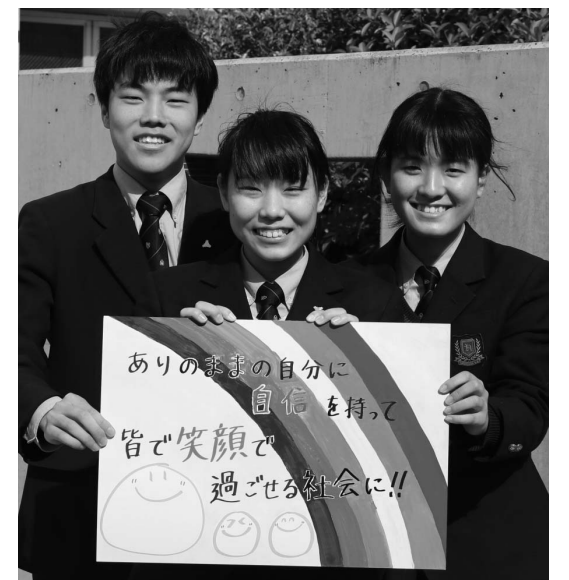
メッセージボードを持つ眞野市長



奥教育長と広島県セクシュアルマイノリティ協会の皆さん



市内小中学校の養護教諭の皆さん



廿日市高等学校生徒会の皆さん